

令和8年度 第3回東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和8年9月15日(月) 午後7時から午後9時まで

◆開催場所 東近江市役所 315 会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾 昌峰、奥村 昭、小島 秋彦、田村 晃、元嶋 雅司、伊藤 真也、綾 康典、藤 一道、小島 淳司、朝比奈 遥、亀田 久美子、川神 仁志

◆事務局

市民部まちづくり協働課

◆報告

- (1) 第1回ミニ座談会の実施報告【資料1】
- (2) 委員からの感想・質疑
- (3) ミニ座談会の今後の日程変更

◆議題

- (1) わがまち協働大賞シンポジウムの企画内容について【資料2】
- (2) 今後の「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について【資料3】

◆開会

○事務局挨拶

○報告

- (1) 第1回ミニ座談会の実施報告【資料1】

【事務局】

令和8年8月18日に開催いたしました第1回ミニ座談会の報告をいたします。登壇者は楠神渉氏、築山清美氏、藤澤彰祐氏、村田淳子氏の4名です。主なやりとりとポイントは以下のとおりです。

条例制定の経緯と「協働」の探究：条例づくり当初から関わるメンバーからも、「協働とは何か」について今なお答えを考え続けているという本音が語られました。一人で完結できる人には向かない側面や、向き・不向きがあるのではないかという視点も出ました。

「まちのわ会議（ラウンドテーブル）」の発足：委員会を離れた有志が自費で沖縄へ視察に行き、夜遅くまで議論を重ねて東近江市版にアップデートしたスピンアウト事業「まちのわ会議」が誕生したエピソードが共有されました。

実践例（バス停設置プロジェクト）：視覚障害のある築山氏の「バス停の位置が分からず困っている」という声から、農協や警察、バス事業者など関係各所との調整を1年半かけて重ね、実際にバス停を設置した事例が紹介されました。

「助けてと言える社会」への転換：80人が参加する講演会で「困っている人を助けられる人」は全員が挙手したのに対し、「自分から助けてと言える人」は一人も手を挙げなかったという逸話が示されました。「助けて」と声を上げられる場づくりや、最初の一押しをする「コーディネーター」の存在の重要性が確認されました。

協働大賞の可視化：審査にあたっては数値化しにくいプロセスやストーリーを重視し、行動そのものを「見える化」したものが協働大賞であると締めくくられました。

(2) 委員からの感想・質疑

【委員】

初期メンバーが悩みながら作り上げてきた歴史や、「まちのわ会議」がスピニングアウトして今も動いている背景がよく分かりました。バス停設置に1年半かかった苦労のお話も非常に印象的でした。

【委員】

資料1の⑤「協働とは何か」の部分に大変興味を持ちました。皆様の認識の本質は共通しているものの、それをどう表現し、協働大賞でどう評価していくかという見方の多面性が合わさることで協働が成り立っていると感じました。

【委員】

登壇者が元委員や行政担当者など、現場でバリバリ動いておられるプレイヤーの方々だったため、協働に対する認識の深さを強く感じました。

【委員長】

行政が政策を固めてパブリックコメントを取る前の「まだ構想段階」の時期に、市民と行政が円卓を囲んで本音で語り合える場（ラウンドテーブル）を作ろうと初期委員会で議論したことが懐かしいです。沖縄視察で深夜2時にステーキを食べた思い出もありますが、任期終了後も有志が「まちのわ会議」として活動を継続している市内の土壌は素晴らしいです。暮らしのレベルで「協働」をどう捉え直すか、今後の大賞のあり方にも繋がる議論です。

(3) ミニ座談会の今後の日程変更

【事務局】

参考資料でお示した今後のミニ座談会の日程について一部変更がございます。変更内容は以下のとおりです。

第2弾：9月30日（水）午後3時30分から午後5時30分まで

第3弾：10月5日（月）午後4時30分から午後6時30分まで（※時間が変更となりました）

場所：いずれも八日市文化交流センター（まちづくりネット東近江）

○議題1

(1) わがまち協働大賞シンポジウムの企画内容について【資料2】

【事務局】

資料2に基づき、シンポジウムの変更点と内容をご説明いたします。

日時：令和8年12月12日（土）午後1時30分から午後4時まで（※登壇者調整のため11月から変更）

会場：湖東コミュニティセンター（※能登川から変更）

第1部パネルディスカッション（50分）：「地域に必要な協働の形」をテーマに、深尾委員長をコーディネーターとして、企業（株式会社 IHI 案）、学生団体（学生カフェ FIKA 案）、ミニ座談会登壇者などを招いて実施。

第2部ワールドカフェ（70分）：メインファシリテーターは森下瑠美氏（まちづくりネット東近江）。10テーブル（各6名程度、計約80名想定）に分かれ、推進委員・事務局がテーブルファシリテーター（書記・進行）を務めます。

(2) ワールドカフェでの「問いかけ（お題）」に関する協議

【委員長】

ワールドカフェでどのような「問いかけ」を設定すると、参加者が話しやすく、大賞の将来像に向けた有益な意見が集まるか、皆様のアイデアをお聞かせください。

【委員】

私のように「そもそも何のために協働するのか」という目的や目指す方向性が見えないまま参加すると戸惑う人もいるかもしれません。目線を揃える工夫が必要です。

【委員長】

この10年間、単独の団体では解決できなかった課題を、異質な主体（企業や行政等）と結びついてリソースを出し合うことで乗り越えてきました。自己責任の「ジレンマ」を突破し、「助けて」と言い合える関係を作るための10年だったと言えます。

【委員】

成功事例だけでなく、「これまで関わった活動で失敗した・うまくいかなかった経験」と、「もし当時こういう支援や工夫があれば乗り越えられたのに」という振り返りを聞いてみたいです。一般的な参加者にとっても、仕事やチームで揉めた経験などに置き換えて答えやすいと思います。

【各委員からの提案】

日常の困りごとの共有：「新生活や日常の中で感じる課題や困りごと（バス停の件など）」から入るアプローチ。

未来へのアイデア：「自分の活動を今後どう発展させたいか」「どんな人と組んでみたいか」というポジティブな問い。

参加者に応じたテーブル分け：「初めて参加した方向け」「実践者向け（失敗談・改善案を語る）」など、テーマ別にテーブルを選択できるようにする工夫。

○議題2 今後の「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について【資料3】

(1) 事務局からの論点提示（4つの論点）

【事務局】

資料3に基づき、これまでの協議内容を4つの論点に整理いたしました。

論点①：「応募数を追うことの是非」と過去受賞事例の再評価：新規団体の開拓だけでなく、過去の受賞事例（10年間で141件）を再評価・後押しする新部門や表彰手法の導入。

論点②：受賞事例の「他地域・他団体への広がり」と活用のあり方：一過性の表彰で終わらず、他地区のまちづくり協議会等が相互に学び合える「生きた道具」としての活用手法。

論点③：活動の「裏側」を届ける情報発信のあり方：完成された綺麗な成果だけでなく、資金不足や衝突などの「苦労・プロセスの物語（ストーリー）」を可視化・発信する方法。

論点④：表彰の価値向上と現地ヒアリングの熱量の還元：受賞が地域の「信頼の証（勲章）」となり、資金調達や仲間集めに繋がる仕組みづくり。選考委員の感動・熱量を市民へ還元する工夫。

(2) 委員による自由討議

【委員】

これまでの協働大賞はすでに実績を上げた事業を称える「MVP」を選ぶ形でした。それとは別に、「まだ始めていないがこれからやりたい」「立ち上げたばかりで応援が欲しい」という事業を評価する「新人賞（ルーキー賞）」のような部門を作ってはどうか。「やりたい人を日本一応援するまち」を目指す方向性が良いと考えます。

【委員長・委員】

アイデアや「妄想」段階のものをプレゼンし、共感した市民や企業が「お助け隊」として集まる「アイデアピッチ大会」（わくわくこらぼ村や議会とのコラボなど）は面白いですね。

【委員】

完成形ではなく、「どんな泥臭い苦労があり、どう壁を乗り越えたか」というプロセス分析が非常に大切です。

【委員長】

毎年1～2事例に絞って掘り下げ、ラジオのパーソナリティ風にインタビューしてポッドキャストやYouTubeで音声・動画コンテンツ化するのはどうでしょうか。小中高校生の探究学習の教材としても蓄積・循環させることができます。

【委員】

過去10年間で141件の受賞事例という素晴らしい蓄積があります。これらを対象とした「セカンド枠」「ネクスト枠」を創設し、過去の受賞者が地域内で新しい活動を推薦するアンバサダーのような仕組みを作ると面白いのではないのでしょうか。

【委員】

社会福祉協議会の第2層協議体交流会のように、表彰式後に受賞団体同士がテーブルを囲んで「どんな工夫をしているか」を深掘り・情報交換できる交流の時間を設けることが重要です。

【委員】

消防署や地域の様々な団体など、評価・採点に関わる主体の塊を増やし、賞の認知度と権利付けを高めていく視点も提案されました。

【委員】

表に立って目立つ活動だけでなく、地域で「助けて」の声を敏感に拾い上げている隠れたキーパーソンやコーディネーターを評価する仕組みも大切です。

【委員】

「本屋大賞」のように、1位だけでなく2位やノミネート作品、惜しくも選外となった団体がその後どう変化したか追跡・紹介する視点があっても良いと感じます。

【委員長】

本日出された「セカンド・ネクスト枠」「ルーキー賞」「プロセスの音声発信」などの素晴らしいアイデアを事務局で整理していただき、次回1月の委員会にて、来年度以降の大賞の具体的な方向性を集約いたします。

【事務局】

今後のスケジュールについて、共有します。内容は以下のとおりです。

第2弾ミニ座談会：令和8年9月30日（水）午後3時30分から午後5時30分まで（文化交流センター）

第3弾ミニ座談会：令和8年10月5日（月）午後4時30分から午後6時30分まで（文化交流センター）

わがまち協働大賞シンポジウム：令和8年12月12日（土）午後1時30分から午

後 4 時まで（湖東コミュニティセンター）※委員出席分は報酬対象

第 4 回市民協働推進委員会：令和 9 年 1 月 20 日（水）午後 7 時から（東近江市役所 314 会議室）